

伝統武道継承の為に

第21回宮崎県空手道生涯武道演武大会

期日 令和4年3月12日(日) 会場 ひなた武道館 副道場



第21回宮崎県空手道生涯武道演武大会にあたり一言ご挨拶申し上げます。コロナ禍も今年で3年目を迎え、心の休まる間も無い緊張状態が続いてります。令和3年度は待ちに待った東京オリンピック並びにパラリンピックが開催され、18個の過去最多のメダルラッシュとなりました。

また政治や経済においても、大きな変動変革の年であったにもかかわらず、その全ての出来事がコロナウイルス変異株の出現により、すべて洗い流されてしまった錯覚に陥ります。さて、伝統空手を志す修行者にとっては、必ず師匠が存在するはずだし、その師匠が複数に及ぶことも多いと思います。また師事する期間にも長短があり、いつかは離別しなければならない運命にあります。私の最も尊敬する師匠との別れは、今から23年前で、46才の時でした。師に対しては尊敬というよりは畏敬の念を抱いて師事させて頂きました。私の考える畏敬とは、はるかに自分と掛け離れている偉大な存在の師を、恐れ敬うことを指しています。「もう来るな!破門だ!」と言われる夢を何度も何度も見ては飛び起きるほど、おそれ敬っていました。やっと辿り着いた最高の師との縁は何があっても守り抜こうと固く決心していましたが、師の77才の病死により、あっけなく夢が打ち崩されました。それ以降、全空連でも、国内でも、国外にいたるまで、大恩師の御威光と恩恵に与り幸せな空手人生を歩いています。皆さんは、『坐辺師友』という言葉をご存知ですか。簡単に言うと自分の身の回りにあるものこそが、師であり友であるということです。今の私にとっての最高の師は弟子であり友であります。彼らを教えるたびに私自身がその何倍もの学びを受け取れます。「教えは学びの半ばなり」私が空手着を着るかぎり、私も学び続けることが約束されます。終わりに、大変厳しいコロナ禍にもかかわらず、伝統武道継承の為に、御参加頂きました同志の皆様にご心から感謝申し上げますと共に益々の御精武を祈念し挨拶といたします。合掌



全空連九州地区協議会議長
宮崎県武道協議会会長
宮崎県空手道連盟会長

佐藤彦空



